PRESS RELEASE

国立大学法人
徳島大学

平成２２年３月５日

弥生時代前期（約 2500 年前）の雑穀種子出土

徳島大学埋蔵文化財調査室（室長：中村　豊）では、2006 年～2007 年の発掘調査で検出した雑穀種子の年代測定と鑑定を依頼し、約 2500 年前のアワとキビであることがわかった。

（報道概要）

徳島大学埋蔵文化財調査室では、2006 年 7 月～2007 年 3 月にかけておこなった、西病棟新築にともなう庄・蔵本遺跡の発掘調査（徳島市蔵本町 2-50-1）において、弥生時代前期の畑を検出したことは、すでに発表している。

その後の作業で、畑の一角の、炭や焼け土を含む土壌を、0.5 ㎜四方の篩で洗浄し、多数の種子を採取することができた。

これらの種子は後世の混ざり込みである可能性も排除できないので、年代測定と鑑定を国立歴史民俗博物館に依頼し、このほどその結果報告があった。

年代測定は、放射性炭素（AMS）法によっておこない、約 2,500 年前であることが明らかとなり、弥生時代前期であることが、ほぼ確定した。また、鑑定の結果、上記の種子には、イネのほか、相当数のアワ・キビが含まれていることが明らかとなった。年代測定試料に提供しなかった、残りの大半は、現在日大生物資源学部准教授倉内伸幸氏に鑑定を依頼している。おもに、以下の点において、重要な意義を持っている。

① 西日本では、遺跡出土の雑穀種子を年代測定した例は、滋賀県安土町竜ヶ崎 A 遺跡のみで、貴重な類例である。
② 従来弥生時代以降は稲作農業を中心とした社会であると考えられてきたが、これに再考を促すきっかけとなる可能性がある。また、畑や雑穀種子は、遺跡で検出するのが難しいため、調査技術を高める契機ともなりうる。
③ 徳島県吉野川流域は、旧国名「阿波」をみてもわかる通り、古来畑作を軸とする農業がみられた。その起源と展開を知る上で貴重な資料となる。

詳細な内容は、３月末刊行予定の年報にて報告する予定である。また、３月２日～３月 16 日の間、徳島大学新蔵地区のガレリア新蔵（日亜会館）１階ギャラリーフロアにて、概要のパネル展示をおこなう。

お問い合わせ先
部局名　埋蔵文化財調査室
責任者　室長　中村　豊
担当者　中村　豊
電話番号　０８８－６３３－７２２４
メールアドレス　yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp

770-8501
徳島市新蔵町2丁目24番地
Phone.088-656-7021
Fax.088-656-7012
http://www.tokushima-u.ac.jp